

表1. 相楽園のクロマダラソテツシジミ採集・目撃数.

調査日 (2016年9月~ 2017年1月)	高温期型		低温期型		不明 目撃	気温(°C) 神戸・最高
	♂	♀	♂	♀		
9月27日					1	31.2
10月7日	1	1			3	27.5
10月14日	1	1			2	21.8
10月20日					1	26.5
10月24日			4		5	21.9
11月1日			3	1	10	19.2
11月10日						14.0
11月16日			3		3	15.8
11月17日				1		17.1
11月25日			5	1	2	14.7
12月2日			3		10	15.2
12月9日						16.3
12月16日			1			7.9
12月19日						13.4
12月21日			1			16.9
12月28日						8.0
1月6日						10.9
1月10日						13.1
計	2	2	20	3	37	

※気温は神戸海洋気象台資料による

14日も同様の状況であった。写真のとおり、園内の地表で開花しているカタバミやホトケノザ等に訪花する個体が目立ち(写真3, 4), ソテツやツツジなどの株上では♂がテリトリーを張るシーンも見られた(写真5)。

10月下旬になると個体数が増加して、表1のとおり12月初旬までは10頭前後が目撃される日が続いたが、気温の低下とともに活動不活発となり、12月中旬から一気に確認できる個体数が減少した。

表1に記したとおり、目撃を除く10月14日までに採集した個体は高温期型なのに対し、10月24日以降に採集した個体は全て低温期型に変わった。ただ、調査日の最高気温(神戸)は両日に大きな変動がなく、発生も連続していた。両型の出現と気温の間には特に有為性を説明できるデータがないので、蛹化した時点(不明)まで遡らないと理由が推察できない。

その他に報告するべき点として、発生当初から♀よりも♂の個体数が多く見られたが、12月初旬からはほぼ♂のみが目撃されるようになった。また、11月以降に採集したのはほとんど新鮮な個体なので、他から飛来したのではなく、園内で羽化した個体が主体と推察できる。ただ、写真6にあるような食痕の残るソテツ数株を調べたが、蛹や抜け殻等は発見できず、蛹化場所の特定までにはいたらなかった。

なお、気温が10度以下となった12月16日の1♂は、低温の影響を受けたのか羽化不全であったが、結果としてシーズン最後に目撃・採集した12月21日の1♂は健全な個体であった。

おわりに、今回の相楽園のクロマダラソテツシジミ調査を提案いただき、10月下旬の調査に同行いただき

た近藤伸一氏に感謝を申し上げる。

○参考文献

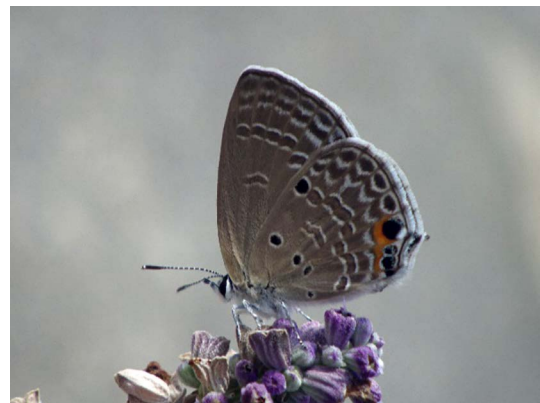
法西浩, 2009. 兵庫県西宮市・宝塚市に侵入したクロマダラソテツシジミの野外観察と飼育記録. 人と自然, 20: 133-137.

(Takasi ASADA 兵庫昆虫同好会)

兵庫県伊丹市でクロマダラソテツシジミを採集・観察

脇村 涼太郎

筆者は2016年9月4日に伊丹市内において、クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava* を採集・観察しているの、報告する(写真)。



クロマダラソテツシジミは南方系のチョウで日本では迷蝶として扱われている。兵庫県では2007年に初めて記録された(平井ほか, 2008)。そして2008年には兵庫のみならず関西圏で大量発生した(法西, 2009)。しかし、その後の記録はあまり無い。

今回採集観察したのは、伊丹市内にある兵庫県立伊丹西高等学校の校門前に植えてあるソテツで、先に友人の押川匠君(伊丹市立天王寺川中学校3年)が高校見学の時に見つけて数個体採集している。その後場所を教え

てもらい行ったところ、成虫は数十個体みられ幼虫も若齢から終齢まで数多くの個体が見られた。そのため、今後もこのクロマダラソテツシジミとソテツを観察する必要がある。

先述の押川君が終齢幼虫を持ち帰ったところ、8日で蛹化、羽化し成虫となったらしい。やはり、南方系のチョウなので成長が早いのであろう。昨年飛来し数十個体に秋ごろまでに増える事は可能である。しかし、このクロマダラソテツシジミが冬を越せるかは分からない。今後も押川君と共に観察を続けていくつもりである。

末筆ながら、本報告を助めていただいた人と自然の博物館の八木剛氏、久保弘幸氏そして、情報を教えてもらい採集に連れて行ってくれた押川匠君に厚く御礼申し上げます。

○参考文献

- 法西浩, 2009. 兵庫県西宮市・宝塚市に侵入したクロマダラソテツシジミの野外観察と飼育記録. 人と自然, 20: 133-137.
- 平井規央・上羽賢憲・坂本佳子・矢後勝也・山本治・森地重博・近藤伸一・石井実, 2008. クロマダラソテツシジミの大阪府と兵庫県における発生と生活史等の知見. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, 52: 153.

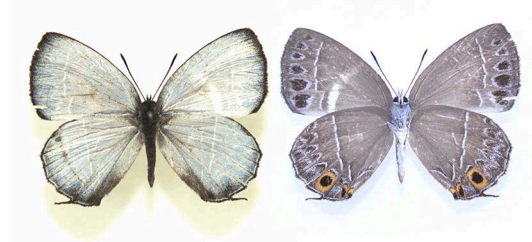
(Ryōtarō WAKIMURA 姫路市立広畑中学校2年)

兵庫県多可町中区にてウラクロシジミを採集

松尾 隆人

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* は、北海道、本州、四国、九州に分布し、東北・関東・中部・近畿の諸地方では山地帯に分布は広いが、産地は一般に局所的(白水, 2006)。県下においては、山陰地方より宍粟郡千種町・一宮町および朝来郡生野町を南限として標高400～900mの山地に広く分布する。しかし、山陰地方の美方郡浜坂町、城崎郡城崎町、豊岡市、出石郡出石町付近では食樹が平地でも稀ではなく、これらの地域では平地にも普通に産する(高田ほか, 1978)。また、近藤伸一氏によると県南部では宍粟市山崎町、神河町(旧大河内町)、篠山市でも記録されており、古い記録に1965年の三田市高次での1例があるという。

筆者は、本種を多可町中区の自宅において採集したので報告する。これは東播磨では初記録であり、三田市に次ぐ南限の記録に当たる。



1♂ (写真), 兵庫県多可郡多可町中区牧野, Alt.115m, 2.VI.2016, 筆者採集保管

チラチラと庭木にまわりついて飛翔していたところを偶然見つけたもので、採集時刻は午後2時頃であった。少しスレ等があるものの鮮度は比較的良好であることから数日前の5月末頃に羽化したものと考えられる。また、前日は北寄りの風が強かったこともあり遠方の生息地から飛ばされてきた可能性がある。しかしながら、その一方で出現期を5月末に想定した場合は既知の山地生息域のそれとは一致しない。はるばる豊岡市近郊の平地から飛来したとも考えにくい。今日まで確認されていなかっただけで自宅近郊の低地にも生息していたという可能性もなくはない。いずれにしても今後も継続的に調査していきたい。

末筆ながら県南部の記録等についてご教示いただき、本誌での発表を助めていただいた、兵庫昆虫同好会の近藤伸一氏、兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏に厚くお礼申し上げます。

○参考文献

- 白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 106-107. 学習研究社
- 高田忠彦・井手敏晴(編), 1978. MDK NEWS 第28巻 通巻79号, 24-26. 虫同好会
- 鍋島五郎, 1998. 兵庫県篠山町でウラクロシジミを目撃, 北摂の昆虫(2) 能勢町深山とその周辺地域, 88. 大阪昆虫同好会
- 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 101-103. 岩峰社

(Takahito MATSUO 兵庫県多可郡多可町中区)